



令和5年5月16日

東京都千代田区四番町5番地3
科学技術振興機構（JST）
Tel: 03-5214-8404 (広報課)
URL <https://www.jst.go.jp>

第2回羽ばたく女性研究者賞（マリア・スクウォドフスカ＝キュリー賞） 受賞者の決定について

JST（理事長 橋本 和仁）は、第2回羽ばたく女性研究者賞（マリア・スクウォドフスカ＝キュリー賞）の受賞者を決定しました（別紙1）。

JSTは、科学技術イノベーションの創出に向けて女性研究者の活躍を推進しています。特に20歳台後半から30歳台前半の時期は、研究者としての活躍が最も期待される期間です。また、同時にライフイベントが想定されることから支援の取り組みが必要だと考えています。そこで令和3年度、JSTは駐日ポーランド共和国大使館とともに、日本の女性研究者のより一層の活躍推進に貢献することを目的に、国際的に活躍が期待される若手女性研究者を表彰する「羽ばたく女性研究者賞（マリア・スクウォドフスカ＝キュリー賞）」を創設しました。本賞は、ポーランドが生んだ偉大な女性研究者 マリア・スクウォドフスカ＝キュリーが、30歳台前半での功績が認められ、後にノーベル賞を受賞したことにちなみ、その名を冠しています。

第2回となる今回は、令和4年9月30日から12月12日まで応募を受け付け、外部有識者からなる選考委員会による審査を経て（別紙2）、最優秀賞1人、奨励賞2人の受賞者を決定しました。

また、選考において、本賞の趣旨に適い表彰に相当する応募者に対し、特別賞1人への授賞も決定しました。

なお、日本電子株式会社（JEOL）の協賛により、最優秀賞に100万円、奨励賞に各50万円、特別賞に30万円を賞金として贈呈します。

詳細につきましては、別紙および下記のホームページを参照してください。

URL : <https://www.jst.go.jp/diversity/researcher/mscaward/>

<添付資料>

別紙1：第2回羽ばたく女性研究者賞（マリア・スクウォドフスカ＝キュリー賞）受賞者

別紙2：羽ばたく女性研究者賞選考委員会 委員一覧

<お問い合わせ先>

科学技術振興機構 人財部 ダイバーシティ推進室

〒102-8666 東京都千代田区四番町5番地3

長田 直樹（ナガタ ナオキ）

Tel : 03-5214-8443

E-mail : [diversity\[at\]jst.go.jp](mailto:diversity@jst.go.jp)

第2回羽ばたく女性研究者賞（マリア・スクウォドフスカ＝キュリー賞）受賞者
（敬称略）

○最優秀賞

賞金：100万円

副賞：ポーランドへの渡航・研究機関などを訪問するための滞在費を支弁

市川 早紀（イチカワ サキ）

ハーバード大学 化学・ケミカルバイオロジー学科 博士研究員

<専門分野>

ケミカルバイオロジー、有機化学

<経歴>

2019年 マサチューセッツ工科大学 博士号（化学）取得

2019年 ハーバード大学 化学・ケミカルバイオロジー学科 博士研究員（現職）

<受賞理由>

市川氏は、化学的な手法を用いて、たんぱく質修飾がもたらすさまざまな生命現象を原子レベルで解明し、がんや神経変性疾患を始めとするヒト疾患に対する新しい治療戦略を生み出す基礎を築くことを目標として研究をしている。

すでに注目度の高い成果を上げて領域に貢献し、実績を積み上げつつある。日米で質の高い研究を自身のイニシアティブにより行いながら、新たな分野に果敢に取り組んでいく姿勢もある。有機化学からケミカルバイオロジーへと研究の幅を広げており、今後もさらなる伸展が見込まれる。未来への展望と意欲が明確であり、非常に将来性の高い研究者である。

○奨励賞

賞金：各50万円

門脇 万里子（カドワキ マリコ）

物質・材料研究機構 構造材料研究センター 研究員

<専門分野>

材料科学

<経歴>

2018年 日本学術振興会 特別研究員（DC1）
2021年 東北大学 大学院工学研究科 博士課程 修了
2021年 物質・材料研究機構 構造材料研究拠点 研究員（現職）

<受賞理由>

門脇氏は、鉄鋼を構成するミクロスコピック（微視的）な要因に着目して腐食現象を解明し、腐食に強い材料を生み出して安全な社会を実現することを目標として研究をしている。

腐食のリアルタイム観察システムの構築・適用や、原子レベルでの炭素による鉄の腐食防御メカニズムの解明、窒素原子による炭素以上の鉄耐腐食性向上などインパクトの高い成果を上げ、資源循環型社会の実現を目指して多くの優れた業績を上げている。国内にいなながらも海外との共同研究を積極的に推し進め、ネットワークを広げようとしており、今後の国際的な活動の飛躍が期待できる。

森山 美優（モリヤマ ミユウ）

イエール大学 医学部 免疫生物学部門 博士研究員

<専門分野>

感染免疫学

<経歴>

2017年 日本学術振興会 特別研究員（DC2）
2019年 東京大学 新領域創成科学研究科 博士課程 修了
2019年 日本学術振興会 特別研究員（PD）
2019年 イエール大学 博士研究員（現職）
2021年 日本学術振興会 海外特別研究員（現職）

<受賞理由>

森山氏は、基礎研究者としてウイルス感染症の理解やワクチン開発に貢献することを志し、ウイルス感染症から人類の健康と命を守るという課題に果敢に取り組んでいる。ウイルスの感染メカニズムの詳細な解明や、経路によって異なる免疫応答が引き起こされる際のメカニズムの解明など、独自性の高い研究を展開しており、ユニークな視点を併せ持つ。

海外との共同研究の意欲が高く、具体的な計画を着実に遂行していこうとする意志が強い。免疫学・ワクチン研究の新星であり、高いレベルで将来有望な人材である。

○特別賞

賞金：30万円

佐々本 尚子（ササモト ナオコ）

ハーバード大学 医学部 ブリガムアンドウィメンズ病院 産婦人科 助教授

<専門分野>

分子疫学

<経歴>

2012年 日本産科婦人科学会 産婦人科専門医 取得

2017年 ハーバード公衆衛生大学院

Master of Public Health 修了

2017年 ハーバード大学 医学部 ブリガムアンドウィメンズ病院 産婦人科
リサーチフェロー

2020年 ハーバード大学 医学部 ブリガムアンドウィメンズ病院 産婦人科
インストラクター

2022年 大阪大学 大学院医学系研究科 医学博士 学位取得

2022年 ハーバード大学 医学部 ブリガムアンドウィメンズ病院 産婦人科
助教授（現職）

<受賞理由>

佐々本氏は、早期での診断法が存在しない2つの婦人科疾患に対し、婦人科を専門とする女性研究医として、プロテオミクス／メタボロミクスなどの分子疫学的手法を用いた早期診断法の確立を通じ、それらの疾患の制圧につなげることを目標として研究を行っている。

第一著者として複数の質の高い論文を出すなど研究業績は高い。また、一度臨床医を務めた後、出産育児などライフイベントも経験しつつ研究者の道を歩み、2022年に医学博士の学位を取得した。海外でかつ女性の少ない分野ですでにPI（Principal Investigator、研究責任者）として活躍しているというキャリアパスに関し、ロールモデルの1人となり得る重要性に鑑み、特別賞を設置し授与することとする。

羽ばたく女性研究者賞選考委員会 委員一覧

(敬称略、委員は五十音順)

岩崎 明子 (委員長)	イエール大学 免疫学 冠教授 ハワードヒューズ医学研究所 正研究員
岩尾 エマ はるか	Google Cloud デベロッパーアドボケイト
大栗 博司	東京大学 カブリ数物連携宇宙研究機構 機構長 カリフォルニア工科大学 フレッド・カブリ冠教授 ウォルター・バーク理論物理学研究所 所長
小谷 元子	東北大学 理事・副学長 (研究担当) 同 大学院理学研究科 数学専攻 教授
染谷 隆夫	東京大学 大学院工学系研究科 教授
沼田 圭司	京都大学 大学院工学研究科 教授 理化学研究所 環境資源科学研究センター チームリーダー
原田 尚美	東京大学 大気海洋研究所 国際・地域連携研究センター 教授
日比谷 潤子	聖心女子学院 常務理事 国際基督教大学 名誉教授
Tomasz M. Rutkowski (ルトコフスキ・ト マシュ)	理化学研究所 革新知能統合研究センター 研究員 東京大学 リサーチフェロー